

通所リハ(就労支援)

「働きたい」という本人の希望に向けた就労移行支援事例(修了)

年齢: 53歳 性別: 男性 疾患名: 脳梗塞(高次脳機能障害)

要介護3 ⇒ 要介護2

通所リハ事例

【介入までの経緯】自宅で無為に過ごしているも、就労意欲あり。社会参加の可能性を見出すために、取り組みを開始した。

【本人・家族の生活の目標】

本人: 就労(元技術科の教師)に向けて支援施設に通いたい。

家族: 就労など役割を持った生活を過ごして欲しい。常に一緒だと負担を感じるため、自分も外出したい。

	利用開始時	中間(6ヶ月後)	サービス修了・就労支援施設へ移行(9ヶ月後)
ADL・IADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ADL一部介助。</li> <li>○屋外歩行は一部介助。</li> <li>○IADLは母親が対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人で留守番が可能。</li> <li>○屋外歩行が一人で可能。</li> <li>○買い物にて支払いが可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ご家族と定期的な外出が可能。</li> <li>○タクシーでの移動が可能。</li> <li>○就労継続支援施設の利用。</li> </ul>
生活行為の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅ADLの自立。</li> <li>○一人での屋外移動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○普通タクシーでの外出</li> <li>○移行先の作業課題の遂行</li> </ul>	<p>【考察】</p> <p>自宅生活での自信に伴い、より社会参加への意識付けが引き出せた。また、作業内容を本人の職歴を参考に提案したことで主体的な参加がみられた。結果、可能なIADLが拡大でき、希望であった移行先へ繋げることができた。</p>
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活動作の評価と練習。</li> <li>○屋外を含めた歩行練習。</li> <li>○外出機会の提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タクシー利用の模擬練習。</li> <li>○エレベーターの操作の練習。</li> <li>○行き先メモなど代替手段提案。</li> <li>○木工など系列動作の練習。</li> <li>○作業適正の評価。</li> </ul>	



**結果** : 留守番が可能となった。買い物など外出機会が増えた。就労継続支援施設の単独利用に繋がった。

**課題** : 個別リハビリテーション加算20分/回ではなく、計画内容の必要量(頻度・時間)に基づき必要に応じた作業指導ができる仕組みが必要。通所の環境以外での指導(自宅や外部施設等)や終了後の継続後フォロー利用、自宅や就労支援施設等への訪問機能が強化される仕組みが必要。